

# 本報告書の要約

## 第 I 部 調査結果の報告

### 1. 小学生の読書の習慣と時間

#### (1) 読書の習慣と時間

- 読書習慣には、ばらつきが大きい。毎日本を読む児童は4人に1人、ほとんど読まない児童も同じく4人に1人。(8頁)
- 1日の平均読書時間は約42分で、0分～1時間に9割が集中。これはマンガを読む時間より短く、テレビ視聴時間の1/3弱、勉強時間の半分強である。(10頁)

#### (2) 本の所有状況

- 所有冊数の多いベスト3は、①物語・童話(11冊)、②図鑑や百科事典など何かを調べる本(9冊)、③学習マンガ(7冊)。(13頁)
- これに対して、趣味の雑誌の保有冊数はおよそ7冊、マンガ単行本は13冊。マンガ単行本は物語・童話を上回っている。(15頁)
- 趣味の雑誌やマンガ単行本は自分のこづかいて買うことが多く、その他の物語・童話などは買い与えられることが多い。(16頁)

#### (3) 書店、図書館の利用

- 本屋さんには本をほとんど買いに行かない子どもの比率は4割、市や町の図書館で本を読んだり借りたりすることがほとんどない子どもの比率は7割。(17頁)
- 学校の図書館の利用度は、ほとんど行かないのが45%、2週間に1回くらいが17%、週に1回以上の利用者は約30%。5年生に比べて6年生で利用度が低下する。(18頁)

#### (4) 最近1カ月の読書

- 最近1カ月に読んだ本のベスト3は、①物語・童話、②学習マンガ、③図鑑・百科事典。男子では学習マンガが多く、女子では物語・童話が多い。(19頁)

### 2. 学校図書館をめぐる

#### (1) 図書館で読む本

- 図書館で借りたり読んだりするジャンルのベスト3は、①物語・童話、②学習マンガ、③探偵・推理小説。男子では学習マンガ、趣味の本が多く、女子では物語・童話への集中が目立つ。(20頁)

#### (2) 利用度の変化

- 中学年(3、4年生)から高学年(5、6年生)にかけて、学校図書館の利用度が減ったのは49%とおよそ半数に達する。その理由は、「このごろとくに読みたいと思わないから」48%、「マンガのほうがおもしろい」40%、「学校や塾の勉強で忙しい」35%、「スポーツクラブや習い事で忙しい」28%である。(23～24頁)

#### (3) 学校図書館への要望

- 要望がもっとも大きいのは、「本の種類や量をもっとたくさんあるといい」67%、これに「ゆつくりと自由に本を読める場所があるといい」55%、「気軽にいけるようなふんいきだ」といい48%が続く。(26頁)
- どんなジャンルの本を子どもは望んでいるのか。第1位は物語、童話の22%、第2位は探偵、推理小説(19%)、第3位はギャグやユーモア(16%)。(27頁)

### 3. 小学生の読書体験

#### (1) 一番感動したり、興味を持った本

- 今まで読んだ本の中で、一番感動したり、興味を持った本のジャンル別ベスト3は、①物語・童話45%、②伝記14%、③探偵小説や推理小説11%。(28頁)

#### (2) 読書の好き嫌い

- 単刀直入に「本を読むことが好きですか」と尋ねると、「好き」35%、「どちらかという」と好き42%、「どちらかという」と嫌い18%、「嫌い」5%。8割の子どもが読書に対して肯定的な回答をしている。(31頁)

#### (3) 読書をめぐる体験

- 「(本を読んでいると)時間があっという間にすぎる」63%、「もっといろいろな本を読みたい」60%、「知らないものや世界のことを知った」56%。(32頁)
- 「塾に行ったり教科の勉強をしたりするほうが大切だと思う」は5%、「ファミコンやほかの遊びのほうが楽しい」のは21%、「たいくつで途中でやめてしまう」は14%。(32頁)

#### (4) これから読みたい本

- これから読んでみたいと思っているジャンルのベスト3は、①物語・童話、②探偵小説や推理小説、③伝記。(34頁)

## 第Ⅱ部 テーマ別分析 何が小学生の読書習慣を決めるのか

- 調査対象の小学生を、読書習慣が身につけているグループとそうではないグループに分類して、読書習慣の形成を促進する要因と阻害する要因を探った。
- 読書習慣の形成と関連をもつ要因は、順に①学校、②国語の成績、③テレビの視聴時間、④家の人の読書習慣、⑤家での勉強時間であった。
- 読書習慣が身につけている子どもの比率を学校別に比較すると、最大の学校では73%、最小の学校で35%ときわめて大きな差がある。この背景には、学校による読書指導や図書館利用指導の相違が存在することが推測できる。
- 次のような特徴の子どもに、読書習慣が身につけている者が多い。  
テレビ視聴時間が短い、国語が得意、家の人が本をよく読んでいる、家での勉強時間が長い。
- 一般に通塾やスポーツクラブに通うことは、子どもの生活を多忙化し、読書時間を奪うものと考えられるが、今回の調査結果はそれを否定している。それらは子どもの読書習慣の形成とは大きな関連を持っていない。またマンガを読む時間の長さも、読書習慣とはあまりかかわらない。

\*第Ⅲ部「寄稿：学校現場からの視点」は、3名の現職教諭の方に本報告書第Ⅰ部をお読みいただき、調査結果から読みとることのできる教育実践上の課題を中心にご指摘いただいた。

\*執筆分担は以下の通りである。

調査の概要・第Ⅰ部-3 ..... 福武書店教育研究所 時松史子

本報告書の要約・第Ⅰ部-1, 2・第Ⅱ部 ..... お茶の水女子大学助教授 耳塚寛明